

平安京右京二条二坊五町

朱雀第四小学校体育館建替えに伴う発掘調査発表資料

(財)京都市埋蔵文化財研究所

調査期間 1995年9月19日～1996年2月末

調査地 京都市中京区西ノ京笠殿町164番地

調査面積 約900m²

1. 調査概要

調査地は平安京右京二条二坊五町の南東隅、二条大路と西鞠負小路のコーナー部にあたる。検出した平安時代の遺構は、二条大路の路面と側溝・柵列で、前期には大型の掘立柱建物が宅地内に建てられていた。今回の調査で特筆すべき点は、平安時代中期に宅地が分割され、宅地の境を中心に4種類の異なったまじない跡が検出されたことである。

(発見した状況)

- ①. 直径約50cmの穴に拳大の石を入れその上に小型の土師器壺と土師器皿1枚を置き、その上箇ら拳大の石で埋めるもの3箇所。その内の一つは小型の土師器壺に土師器の皿で蓋をする。
- ②. 土師器甕に貨幣の富寿神寶(818年初鑄)を3枚埋納したものが1箇所。
- ③. 土師器皿に土師器皿で蓋をしたもの1箇所。
- ④. 須恵器瓶子を埋納したもの5箇所。その内、1箇所では須恵器瓶子の中に約5mmの磨いた白石を数粒入れたものがあった。

(地点と時期)

宅地割の南北堀付近と二条大路内溝沿いで検出され、すべて9世紀末から10世紀初めのものである。とりわけ南北堀の東側では、何度も水の制御を試みたことがうかがえ、水路のようになっている。

(どのような、まじないか?)

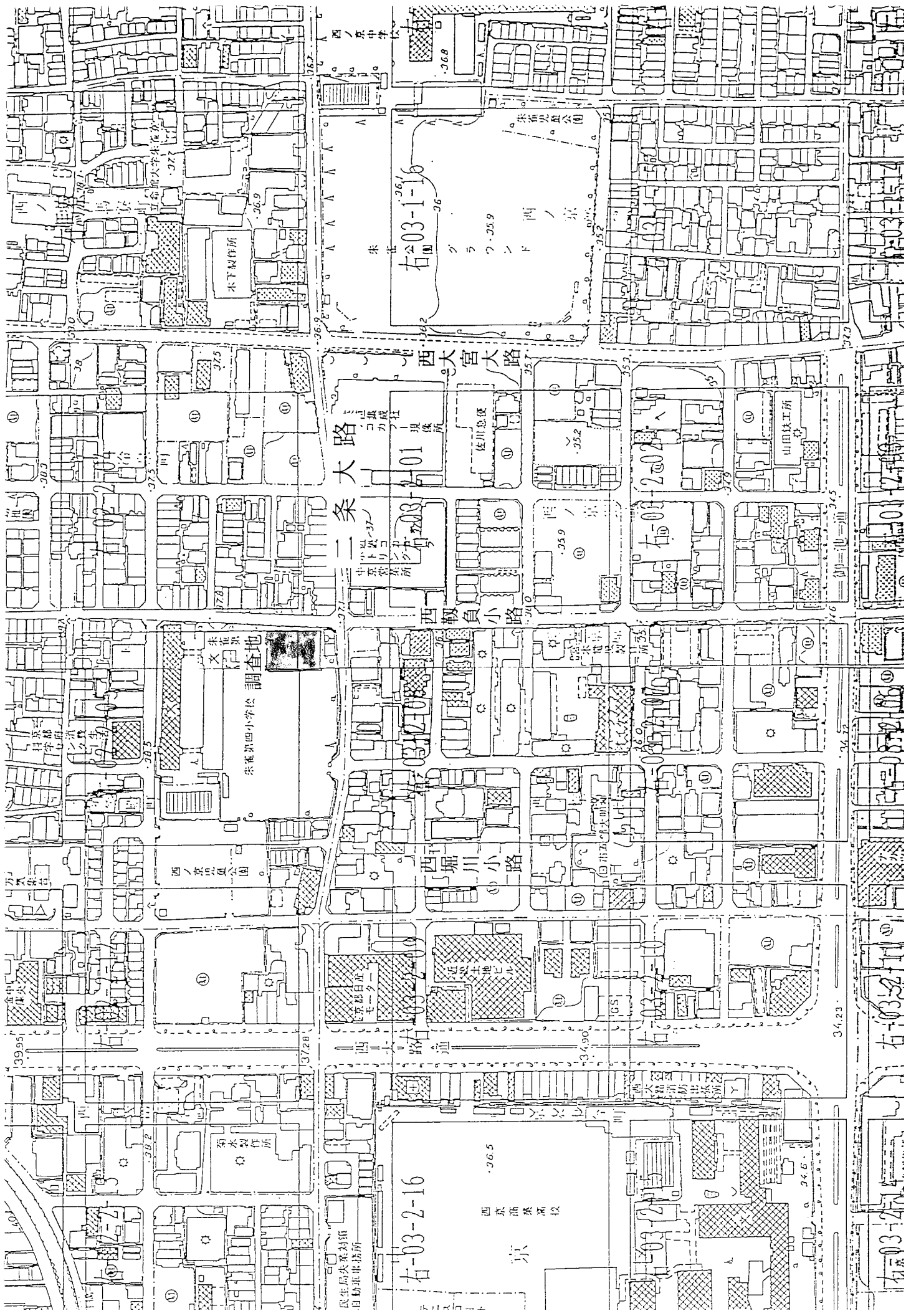
宅地内の地盤を安定させるための地鎮跡であると推定している。

(なぜ、何回もおこなわれたのか?)

平安時代、この付近の宅地は排水処理がうまくおこなえず、幾度もそれを改善しようと試みたことが、重複した水路からうかがい知れる。「まじない」もそうした現れの一つと考えられる。当地の遺構面(平安時代前期)は、古墳時代の流路と沼跡などからなっており、そのため地盤が非常に軟弱であった。二条大路の路面も、10世紀に改修されている。これらの改修も、この付近の軟弱な地盤からどうしても行わなければならなかったであろう。

2. まとめ

平安京内の発掘でこれだけたくさんのまじないの遺構が一度に検出された例は少なく、とりわけ①のまじない跡と④の白石を納めた例は初例である。呪術に縛られていた当時の人々の苦悩の一端を示すものであろう。これらの頻繁に行われた地鎮祭祀は、右京に住んだ人々が住みやすい土地になるように祈った跡と解釈した。



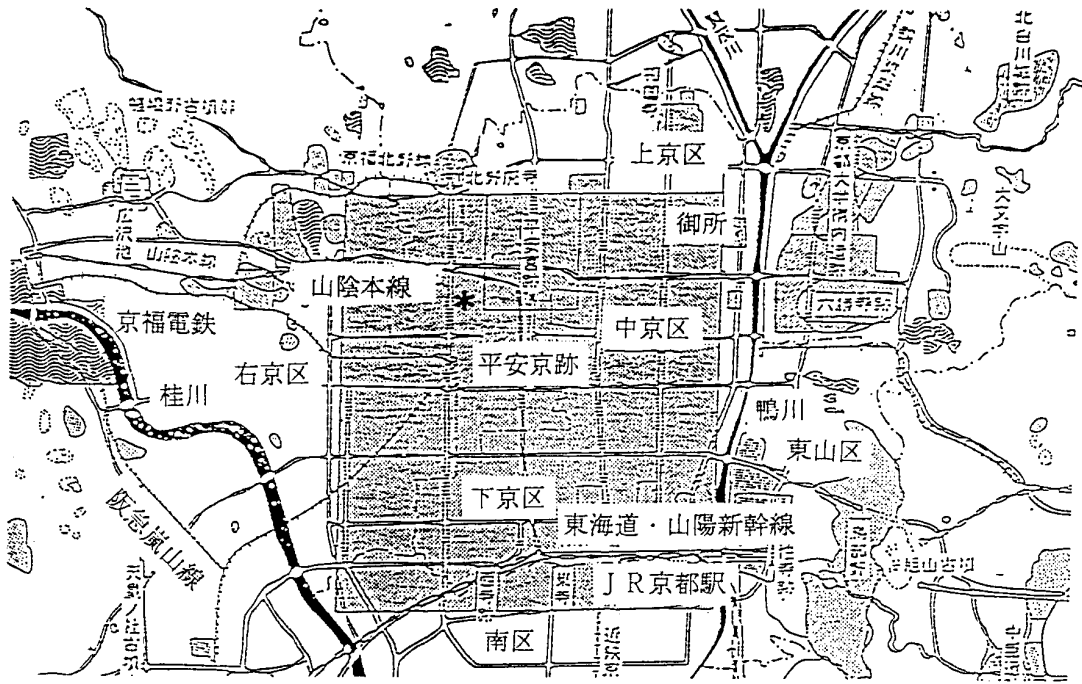


図1 平安京跡周辺図 (*印が発掘調査地点)

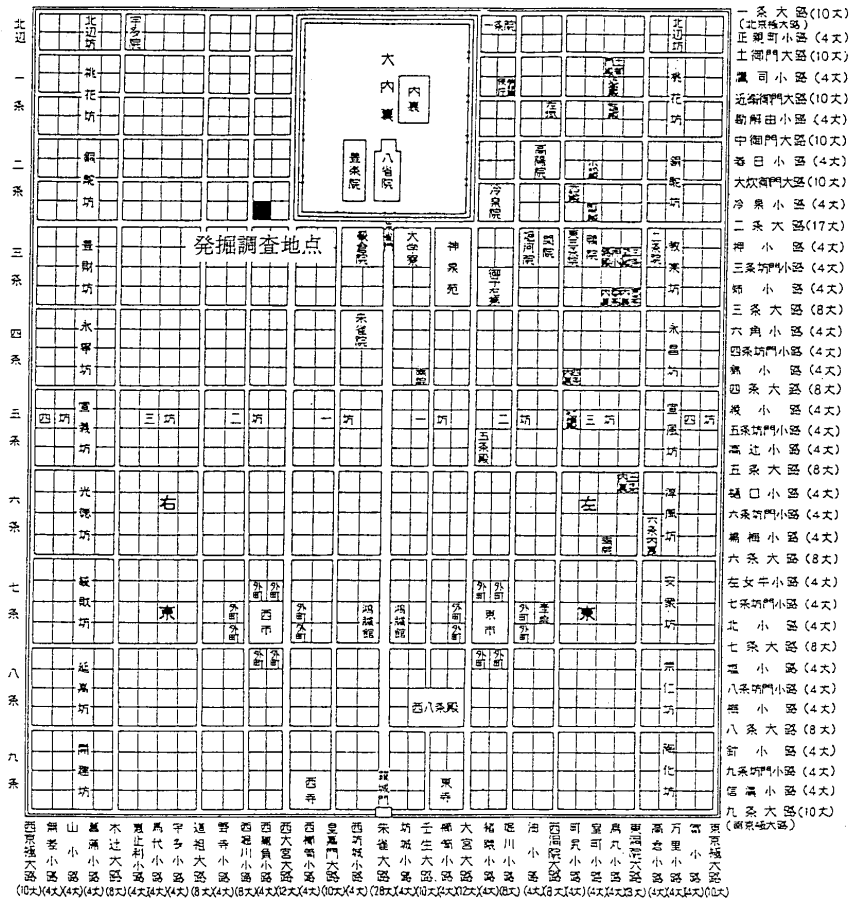


図2 平安京における発掘調査地点

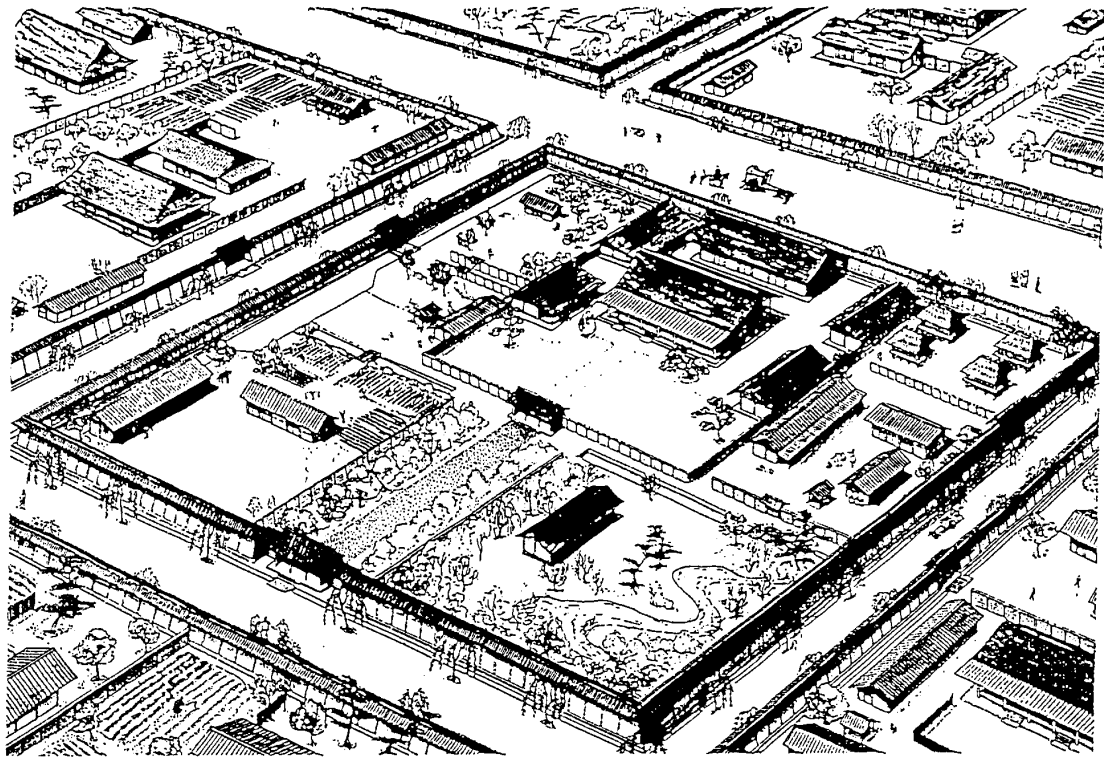


図3 平安京右京一条三坊九町の住宅地の想像図（今の山城高校のところ）

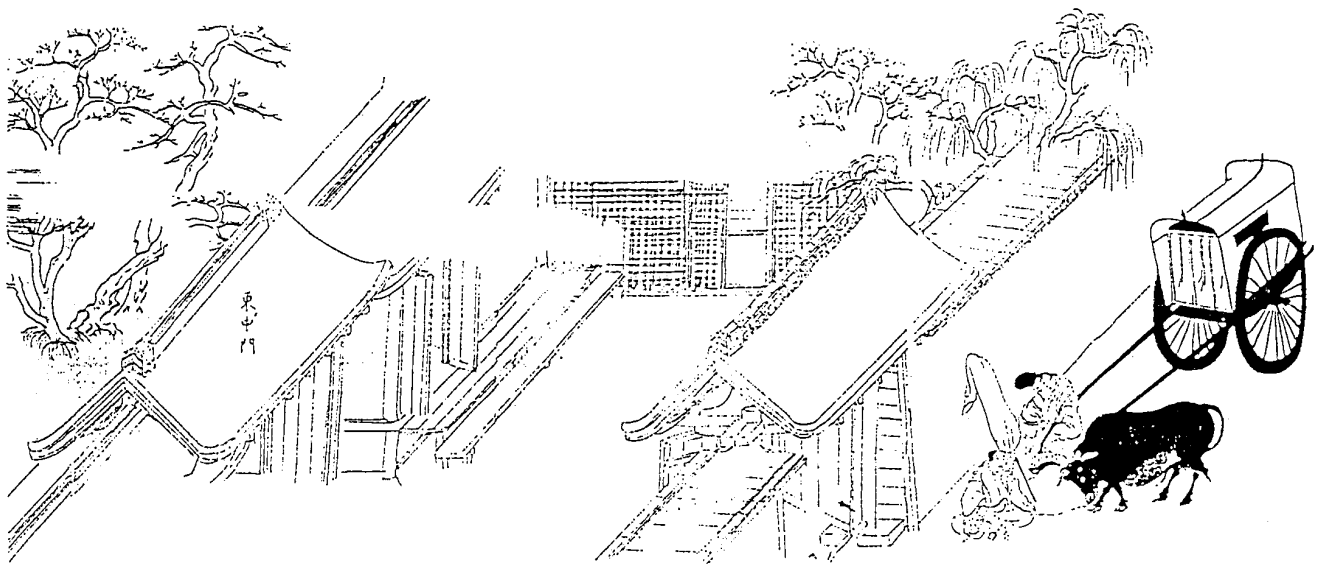
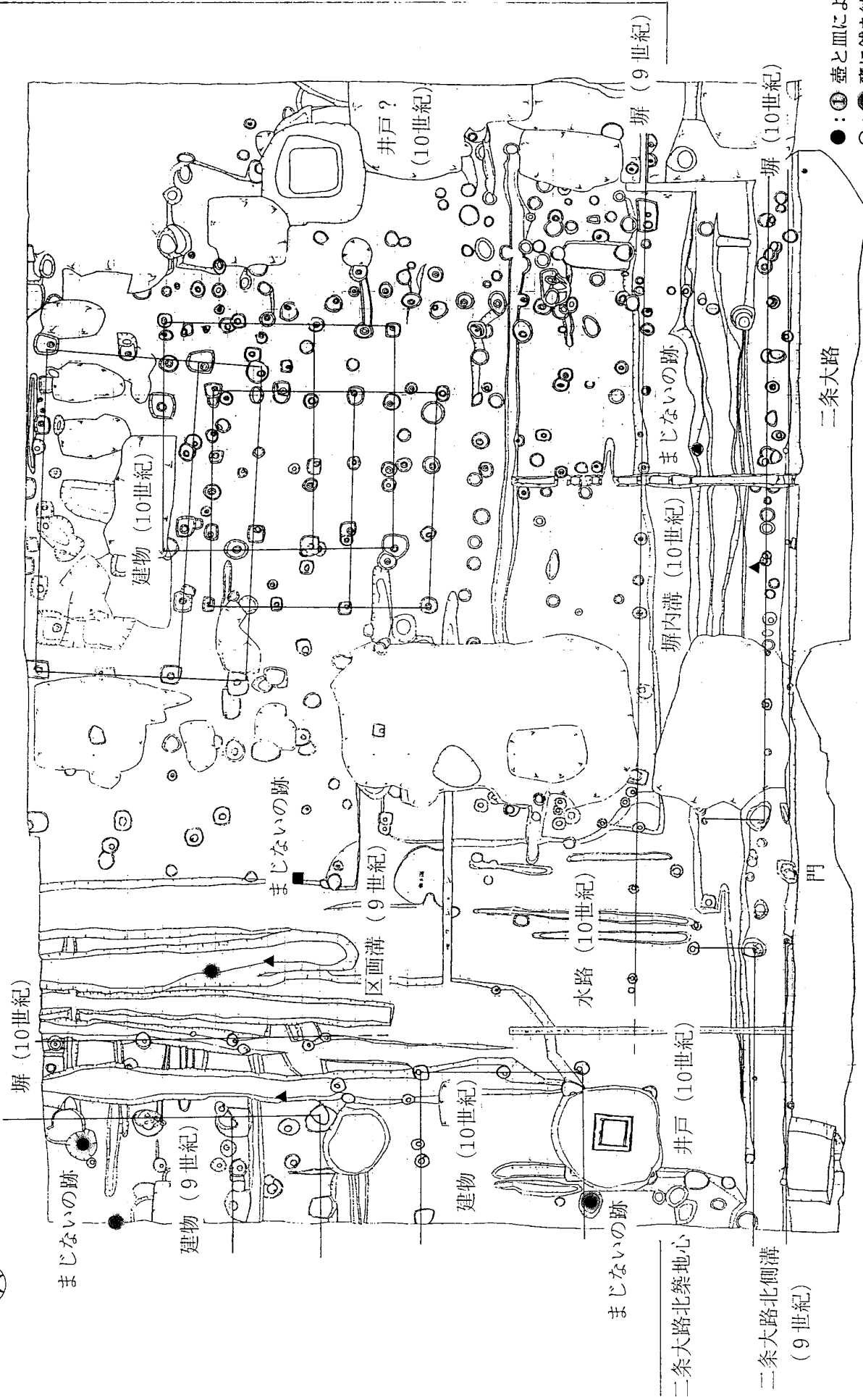


図4 平安時代の終り頃に描かれた絵巻物にみられる道路と塀と門

（貴族の家の東の築地と門が描かれています。左には建物の廊下につくられた中門がみられ、その奥に主人の建物と庭があります。道路ではこの家に招かれた人が乗ってきた牛車と従者が待っています。道路の溝はすでに埋められたのか描かれていません。）



- : ① 壺と皿による祭祀 (礎敷)
- : ② 甕に銭を納める祭祀
- : ③ 皿を合わせる祭祀
- ▲: ④ 小壺埋納による祭祀



図5 調査区平面実測図 (1 : 150)

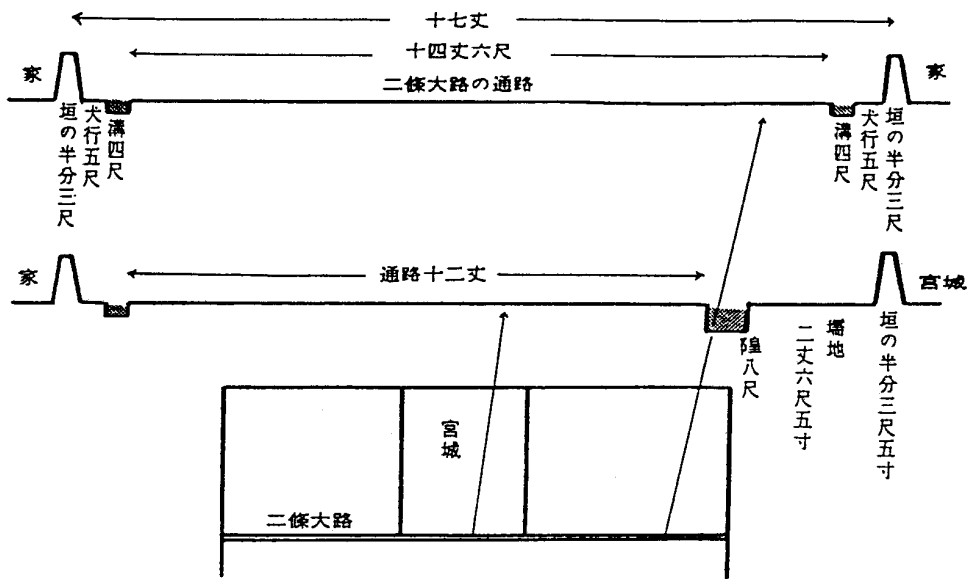


図6 二條大路概念図
岸元史明「平安京地誌」より

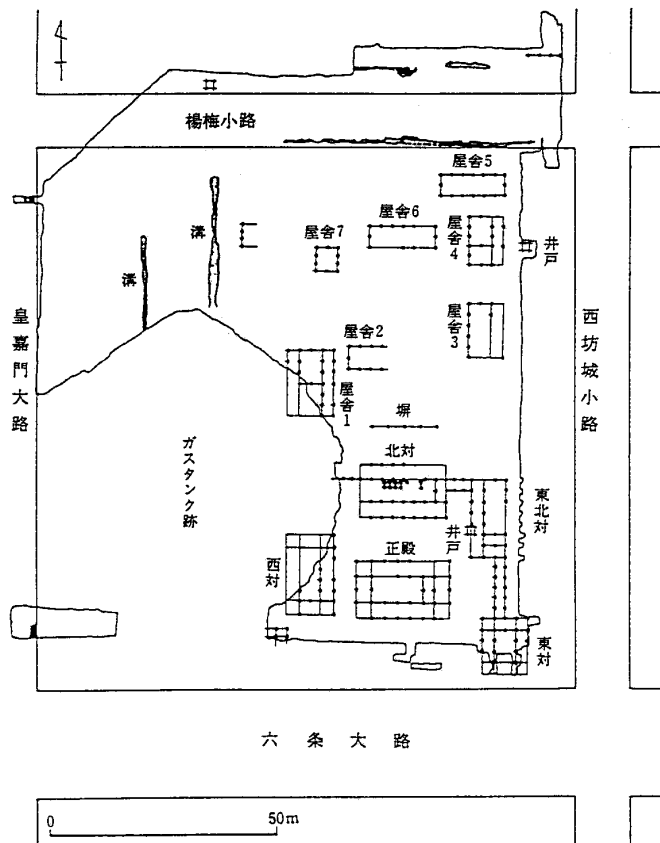


図7 右京六条一坊五町遺構図